

開館スケジュール

開館時間

9:00 - 21:10

9:00 - 20:00

9:00 - 16:45

閉館

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

4/1 (月) ~ 8 (月)	オリエンテーション期間	4/9 (火)	授業開始日
5/6 (月) ~ 7/15 (月)	祝日授業日	7/14 (日) ・ 7/21 (日)	日曜開館
7/24 (水) ~ 9/11 (水)	夏休み特別貸出	9/26 (木)	夏休み特別貸出返却日

サービス内容・窓口時間		月～金 (授業期間)	土曜・祝日授業日・ 授業休止期間
開館時間		9:00～21:10	9:00～20:00
貸出・返却	1・2・3階 カウンター	9:00～21:00	9:00～19:50
レファレンス受付			
予約制閲覧室の 申込受付	2階カウンター	9:00～20:00	9:00～19:00
ノートPCの 貸出・返却	2階カウンター		
【個別相談】 レポートの書き方 文献探索の方法 データベースの 使い方 など	学習サポート デスク (3階カウンター)	授業期間の月～金 (通常) 11:00～16:00 または 14:00～19:00 大学院生の学習サポーターが、学習相談に お応えします。お気軽にお越しください！ ※土曜日はお休みです ※曜日によって窓口時間が異なります 詳細はサポートデスクでお確かめください	

TKU LIBRARY NEWS

Vol. 7



CONTENTS

図書館だより

- 1-2 <寄稿> 関口 純平 (2015年経済学部卒業)
「大学生活をenjoyしたのか？」
- 3-4 特別企画講義「書を読もう、図書館へ行こう！」
- 5 開館スケジュール・窓口時間

「大学生生活をenjoyしたのか？」 関口 純平 (2015年経済学部卒業)

福岡でメーカーの営業として働いている関口純平です。

2015年に経済学部を卒業、働きだして4年が経つが、上手くできない会話がある。

「学生の時は何してたの？」という問いから始まる会話。

入社試験の面接ではないから、自己PRや熱心な活動を話す必要はない。入社後のこの質問は、むしろ逆に「大学生生活をenjoyしたのか？」を話すことを求められている気がする。その証拠に「やっぱり遊んでたの？」とセットで聞かれるのだから。

やんちゃな顔して「講義なんてほとんど出た覚えありませんね、遊んでました。」さらに異性とのエピソードがあれば話が盛り上がるかもしれない。入社前には自分のまともな姿を語って、入社後には不真面目な姿を語る。こんな二面性が求められるから、気持ちが参る社会人が多いんじゃないかと思ったりする。

授業をサボった覚えもなく、授業が終われば図書館に通うことが日課だった僕に、そんなエピソードはない。「図書館で本を読みました。」と正直に話すのがいいか、「ぼちぼち遊んでましたね。」と濁して逃げるのがいいか、迷っている。

とりあえず、後輩に同じ質問するのはやめようと思っている。

ベストアンサーはこれからも模索するとして、図書館は僕の大学生生活には欠かせない施設だった。

図書館に通いだしたのは高校2年生の時。それまでの人生で10冊も読んだことはなかったけど、東野圭吾の「容疑者xの献身」が面白くて、10分休みに必ず図書館に行くようになった。毎月の購入書籍の便りを楽しみにし、書籍のリクエストもするようになった。リクエストする人がほとんどいなかったのか、リクエストすればその本を購入してもらえた。

高校時代は特に自意識が強くて、上っ面だけで人と話していたから、自ら孤独を招いていた。でも本棚を眺めていると充実した孤独を送ることができた。



東野圭吾著
『容疑者xの献身』
文藝春秋, 2005年

大学ではサークルもバイトもせず、有り余った時間を図書館で過ごしていた。何をしていたか記憶が少ないけど、さくらももこのエッセイ「ひとりずもう」を笑いこらえて肩を震わせながら読んでたことは覚えている。

4年の時にはゼミテーマだったナチズムに関する本を読んでいた。読んでる本、読みたい本のことを考えると、大学生生活をenjoyすることなんか気にならなかった。(自分としてはenjoyしていたし)卒業旅行でアウシュヴィッツ(ポーランド)に訪れるまで没頭していた。

図書館は(本は)、高校時代は過剰な自意識を、大学時代は有り余る時間を、今は働き続けることへの疑問を、時には共感させ、時には没頭させ、時には認識の甘さを伝えてくれる存在になった。働きだして、本を読む時間はだいぶ減ったけど、たまに市立図書館に行って、本棚を眺めている。

「〇〇を知らないのは、人生半分損してる」という言い方をたまに聞くと、「いや知らないんだったら損も得もないんじゃないか」と思うけど、教養のため、知識のため、役に立つとかいう先入観を捨てて、ぷらっと図書館に行って本棚をブラブラ眺めてみるといいと思います。ネットサーフィンをするように。コレは！という本が見つかるかもしれません。

それと冒頭に社会(もしくは会社)では二面性が求められるようなことを書いたけど、それは勝手に自分が作り出したルールでもあるし、会社の中には恩を感じたり、恩を返してもらおうような「善き」人間関係があります。なので必要以上に汚れたものだとか警戒することもないし、「良くも悪くも学校社会の延長だな」と思っています。

それでは良き大学生生活を。

関口 純平さんは、特別企画講義「書を読もう、図書館へ行こう！」第7回(5/28)に登壇し、推薦図書『沈黙』(遠藤周作:著)について講演の予定です。本寄稿文と合わせてご覧ください。



さくらももこ著
『ひとりずもう』
小学館, 2005年



遠藤周作著
『沈黙』
新潮社, 1981年

2019年度 特別企画講義 「書を読もう、図書館へ行こう！」

2019年度 特別企画講義(第1期)「書を読もう、図書館へ行こう！」が開講されます。

複数講師によるオムニバス形式/通算14回の講義です。

＜火曜4限 初回のみB201教室 ・ 2回目以降E201教室＞

図書館1階ブックウォールDで、「推薦図書」および「関連資料」を展示しています。

講義で配布する資料も展示コーナーに設置しますので、あわせてご利用ください。

日程	推薦図書	講師 (主な担当科目)
1 4月9日	ガイダンス (この講義の目指すこと)	徐 京植 (芸術学等・現図書館長)
2 4月16日	対談「いつもそこに本があった」 『まっぴたつの子爵』カルヴィーノ:作 河島英昭:訳 岩波書店, 2017年(岩波文庫; 赤(32)-709-6) (大岡) 『寺田寅彦随筆集』寺田寅彦:著 小宮豊隆:編 (改版) 岩波書店, 1963年 (徐)	大岡 玲 (日本文学等・元図書館長) 徐 京植 (芸術学等・現図書館長)
3 4月23日	『大浦湾の生きものたち 琉球弧・生物多様性の重要地点、沖縄島大浦湾』ダイビングチームすなっくスナフキン編集. 南方新社, 2015年	大久保 奈弥 (生命の科学等)
4 5月7日	『指輪物語』 J.R.R.トールキン:著 瀬田貞二:訳 評論社文庫, 1992年	高津 秀之 (外国史等)
5 5月14日	『私たちにはことばが必要だ フェミニストは黙らない』イミンギョン:著 すんみ/小山内園子:訳 タバブックス, 2018年	澁谷 知美 (ジェンダー論等)
6 5月21日	『オリエンタリズム 上・下』 エドワード・サイード:著 今沢紀子:訳 平凡社, 1993年	早尾 貴紀 (世界政治論等)
7 5月28日	『沈黙』 遠藤周作:著 新潮社, 1981年	関口 純平 (2015年経済学部卒業)
8 6月4日	『戦争と罪責』 野田正彰:著 岩波書店, 1998年	戸邊 秀明 (日本史等)
9 6月11日	『永瀬清子詩集』 永瀬清子:著 思潮社, 1990年 (現代詩文庫; 1039)	大田 美和 (中央大学文学部教授)
10 6月18日	『オネーギン』 プーシキン:作 池田健太郎:訳 (改版) 岩波書店, 2006年 (岩波文庫; 赤(32)-604-1)	相澤 伸依 (倫理学等)
11 6月25日	『荒廃する世界のなかで これからの「社会民主主義」を語ろう』トニー・ジャット:著 森本醇:訳 みすず書房, 2010年	岡本 英男 (学長)
12 7月2日	『パル判事 インド・ナショナリズムと東京裁判』中里成章:著 岩波書店, 2011年 (岩波新書; 新赤版 1293)	古井 龍介 (東京大学准教授)
13 7月9日	『引き裂かれた西洋』 ユルゲン・ハーバーマス:著 鈴木直 他:訳 法政大学出版局, 2009年	鈴木 直 (社会思想史等)
14 7月16日	まとめの鼎談「読書の未来」 『ホモ・デウス テクノロジーとサピエンスの未来 上・下』ユヴァル・ノア・ハラリ:著 柴田裕之:訳 河出書房新書, 2018年	西垣 通 (元コミュニケーション学部教授 前図書館長) 大岡 玲 (日本文学等・元図書館長) 徐 京植 (芸術学等・現図書館長)

図書館1階ブックウォールD展示コーナー



「社史」を就活の情報収集に役立てよう！

東経大の図書館は、「社史」を他の大学の図書館に比べて多数所蔵しています。「社史」には会社や企業の歴史・創業者の思いなどが載っています。「就活」をする時の重要な情報源にもなりますよ。現在、図書館1階ブックウォールCで、「社史」を紹介する展示コーナーを展開しています。



更に興味を持ったなら、地下1階の集密書架へ行ってみてください。そこには2000冊弱の社史が配架されています。また、5月には図書館と学習センターのコラボ企画「社史を利用した会社研究の方法に関する講座」を開催する予定です。